

校長室より

二松学舎大学附属高等学校

校長 鶴飼教之

「二松から飛翔へ」

秋らしくなってきました

朝夕の通学時には半袖では少し肌寒い季節になってきました。ついひと月前までは残暑が厳しく、熱中症が心配の種でしたが、校長室の朝の気温も27度台から21度台に大幅に下がってきました。

久しぶりに“おはようカウンター”が「609」と600名の大台を超えました(10/12)。この数値も9月11日以来のひと月ぶりです。先週は、インフルエンザが流行し、学校を閉じる措置をとりましたが、週明けは生徒の登校状況も回復し、ホットー安心です。



秋は、様々なことにチャレンジしてください。二松祭終了後も、行事は目白押しです。2年生の修学旅行、1年生の校外学習(TGG体験)、さらに各部活動の大会など、夏に磨いた技術やチームワークを発揮する場面です。また、この時期は進路のことも考えましょう。担任の先生との面談を通して、将来のキャリア等について見つめてみてください。1年生は分野系統別進路相談会で理系や文系等の学びについて理解を深め、コース選択の参考にしましょう。2年生はじっくりと学習に取り組むことが将来の可能性の幅を広げてくれるでしょう。そして3年生は、推薦選抜に向けた準備、一般受験へのチャレンジ、それぞれの課題に向けて精一杯努力を重ねてください。皆さんが自らを高めるために取り組んでくれることを期待しています。

先日、3年生の二松学舎大学内部推薦及び指定校推薦の決定者への激励を行いました。今一度、希望する大学・学部についての意思を確認すること、そして、深い専門性を身に付ける基盤としての教養を学ぶため、これからも二松での生活を充実したものとすること、そして保護者・先生方への感謝の気持ちを忘れぬことの三点を話しました。附属高校の看板を背負って大学に進むことは、名誉でもあり、責任でもあることを忘れずにいて欲しいと思います。

ある休日の過ごし方

今年は、“キンモクセイ”の香りが漂うのが少し遅いようです。

先日のスポーツの日(生憎の雨でしたが)に合わせて、ちょっと野外で体を動かそうと庭の樹木のせん定に取り掛かりました。運動と言えるかは別ですが…1年ほどほったらかしていたせいで、木は伸び放題で、敷地の塀から公道に大きくはみ出している始末でした。脚立を準備し、せん定ハサミや電動の樹木用チェーンソーで一気に刈り込みました。通りを歩く近所の方々から「キレイになりますね、上手ですね。」とちやほやさされ、植木屋さんに転職しようかなどといい気になって秋の一日を過ごしました。



樹木のせん定は、注意深くその成長を促しながら、必要なケアを提供することが大切です。健康な部分を育て、不要な枝や病気の部分を切り取り、樹木の将来の健康と美しさをサポートしていきます。また、せん定の時期も重要です。それぞれの種にあった時期に実施しないとせっかくの新芽を落としてしまうことにもなりかねません。今回、“キンモクセイ”は、せん定の対象から外し、12月に延期と決めました。

子育ても一緒かもしれません。必要な指導や愛情を提供し、彼らの将来を形作っていく作業です。でも、あまりきれいに揃えようとし過ぎない方がよいこともあるのかもしれない。私と同年生まれの歌人・俵万智さんの歌集『サラダ記念日』(昭和62年出版)に収められた「親は子を育ててきたと言うけれど勝手に赤い畑のトマト」という短歌が印象に残っています。親の視点、子供の視点など読み手によって捉え方が違ってくるのがこの和歌の面白さと解釈されています。

いずれにしても樹木や子供の個性を生かしつつ、丁寧な配慮が必要なのだと感じます。